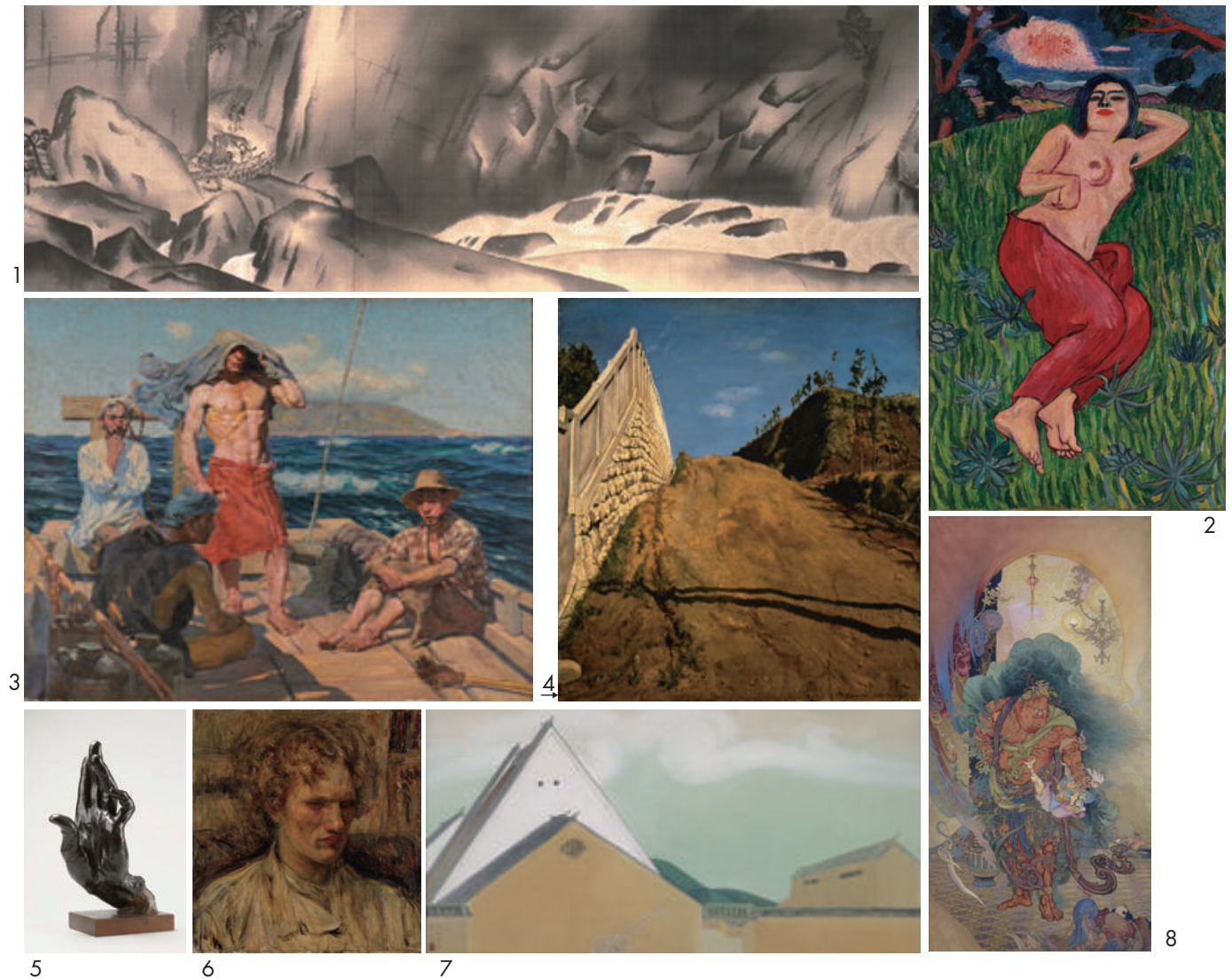


2021年夏、明治から現代までの日本美術の名作が一堂に！

MOMAT コレクション特別編 ニッポンの名作 130年

2021年5月25日（火）—9月26日（日）※6月1日（火）より再開します。



東京国立近代美術館では、今夏、明治から現代までの日本美術の名作をコレクションから選りすぐった特別編「ニッポンの名作 130年」を開催します。横山大観《生々流転》をはじめとする8点の重要文化財を核とした部屋や、藤田嗣治、東山魁夷ら著名な作家を特集した部屋などが連なる、ふだんとは一味違った贅沢な展示です。

明治以降、海外への門戸を開いた日本は、西洋文化にあこがれる一方、自らのアイデンティティを問い続けてきました。そしてまた震災や戦争などにも直面してきました。そうした激動の時代の中から生み出された作品は、それぞれの時代の姿を鮮やかに映し出しているでしょう。近代から現代に至る約130年の日本美術の流れを、珠玉の名作ばかり約250点（会期中一部展示替あり）の作品でたどる本展は、オリンピック・パラリンピックにあわせて、訪日外国人を含む多くの方々にご覧いただきたいと企画したものです。新型コロナウイルスの感染拡大により、海外からのお客様はお迎えしにくい状況となりましたが、めったに一堂に会することのない名作をまとめてじっくり堪能できる貴重な機会です。ぜひお楽しみください。

みどころポイント

✓ 横山大観《生々流転》をはじめ 8 点の重要文化財を公開

東京国立近代美術館には 15 点の重要文化財がありますが、保存の観点から公開できる日数は限られています。全長 40m におよぶ絵巻物の大作、横山大観《生々流転》(1923 年) を前後期に分けて公開するほか、合計 8 点の重要文化財をご紹介します。



1

□通期(5/25—9/26)で展示される重要文化財

- ・原田直次郎《騎龍観音》1890 年 寄託作品
- ・和田三造《南風》1907 年
- ・萬鉄五郎《裸体美人》1912 年
- ・岸田劉生《道路と土手と堀(切通之写生)》1915 年
- ・中村彝《エロシエンコ氏の像》1920 年
- ・横山大観《生々流転》1923 年(ただし前期・後期で展示箇所が異なります)

□前期(5/25—7/18)に展示される重要文化財

- ・土田麦僊《湯女》1918 年

□後期(7/20—9/26)に展示される重要文化財

- ・安田靉彦《黄瀬川陣》1940/41 年

✓ 横山大観、東山魁夷、梅原龍三郎、藤田嗣治……巨匠の特集が目白押し



9

美術史の流れをたどるふだんの展示では、一人の画家につき 1、2 点ずつしかご紹介できませんが、今回は藤田嗣治や東山魁夷など、何人かの巨匠について部屋ごとに特集を組みました。いくつものミニ個展をお楽しみください。

また「岸田劉生と萬鉄五郎」、「安井曾太郎と梅原龍三郎」、「横山大観と竹内栖鳳」など、二人の作家を対比的に紹介する部屋にもご注目ください。

展覧会の構成

- 第 1 室 伝統絵画のゆくえ
- 第 2 室 明治の美術
- 第 3 室 萬鉄五郎と岸田劉生を中心に
- 第 4 室 小原古邨(祥邨)
- 第 5 室 中村彝を中心に
- 第 6 室 梅原龍三郎と安井曾太郎
- 第 7 室 藤田嗣治
- 第 8 室 具体とアンフォルメル

- 第 9 室 (前期) 富山治夫「現代語感」
(後期) 高梨豊「オツカレサマ」
- 第 10 室 (前期) 横山大観と竹内栖鳳
(後期) 加山又造
(通期) 東山魁夷
- 第 11 室 現代工芸の座標
- 第 12 室 この 30 年の美術



10

みどころポイント

☑ 現代工芸の座標



11

工芸館は昨年度に石川県金沢市に移転し、国立工芸館となりました。しかし東京でも、さまざまな角度から工芸・デザインを紹介する機会をもち続けていきます。今回は1970年代以降の新しい工芸の展開をご紹介します。

☑ 2階ギャラリー4はコレクションによる小企画 「鉄とたたかう 鉄とあそぶ デイヴィッド・スミス 《サークルIV》を中心に」

会期：2021年6月18日（金）—9月26日（日）

近年新たに収蔵した、戦後アメリカを代表する彫刻家デイヴィッド・スミス（1906-1965）の《サークルIV》（1962年）を中心に、アンソニー・カロ、村岡三郎、若林奮、土谷武などによる、鉄を素材とした彫刻作品を特集します。

12



■ 広報用画像の貸出について

所蔵作品展「MOMAT コレクション」に出品中の作品画像は、いずれも無料で貸出しております。貸出しの条件は次のとおりです。

- (1) 展覧会（所蔵作品展「MOMAT コレクション」）の会期中または会期前に発行される記事であること。
- (2) 掲載時には展覧会名（所蔵作品展「MOMAT コレクション」）と会期、掲載作品が展示中であることを記すこと。
- (3) 原則として、トリミングや文字載せはご遠慮ください。
- (4) このプレスリリースに掲載されている画像については、著作権の保護期間にある作品も許可なしでご利用いただけます。ご希望の画像の番号をお知らせください。プレスリリースに掲載がなく、著作権の保護期間内にある作品については、掲載者側で事前に著作権者の許諾を得てください。
- (5) 画像の二次使用はお断りしております。
- (6) 展示期間外の画像利用は、DNP アートコミュニケーションズから有償での貸出しとなります。
(<https://images.dnpartcom.jp/>)

画像クレジット

1. 横山大観《生々流転》1923年、重要文化財（部分） | 2. 萬鉄五郎《裸体美人》1912年、重要文化財
3. 和田三造《南風》1907年、重要文化財 | 4. 岸田劉生《道路と土手と塀（切通之写生）》1915年、重要文化財
5. 高村光太郎《手》1918年頃、撮影：大谷一郎 | 6. 中村彝《エロシェンコ氏の像》1920年、重要文化財
7. 速水御舟《奈良の家》1927年 | 8. 狩野芳崖《仁王捉鬼図（におうそっきず）》1886年
9. 安井曾太郎《金蓉》1934年 | 10. 元永定正《作品》1961年 | 11. 小川待子《無題》2008年、撮影：アロー
- アートワークス ©2020 | 12. デイヴィッド・スミス《サークルIV》1962年、撮影：大谷一郎

開催概要

タイトル(日)	所蔵作品展「MOMATコレクション特別編 ニッポンの名作130年」
読み方 (英)	しょぞうさくひんてん もまっとこれくしょん Collection Exhibition MOMAT Collection
会期	2021年5月25日(火) - 2021年9月26日(日) ※6月1日(火)より再開します。
会場	東京国立近代美術館 4F - 2F 所蔵品ギャラリー (東京都千代田区北の丸公園3-1)
主催	東京国立近代美術館
開場時間	10:00-17:00、いずれも入館は閉館の30分前まで
休館日	月曜日(7月26日、8月2日、8月9日、8月30日、9月20日は開館) 6月17日(木)、8月10日(火)、9月21日(火)
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」(1b出口)徒歩3分
観覧料	<p>一般500(400)円、大学生250(200)円</p> <p>※()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。</p> <p>※金・土曜の17時以降は、割引料金。一般300円、大学生150円。</p> <p>※高校生以下および18歳未満、65歳以上、「MOMATパスポート」をお持ちの方、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。入館の際に、学生証、運転免許証等の年齢の分かるもの、障害者手帳等をご提示ください。</p> <p>※キャンパスメンバーズ加入校の学生・教職員は学生証または教職員証の提示でご観覧いただけます。</p> <p>※「友の会MOMATサポーターズ」、「賛助会MOMATメンバーズ」会員の方は、会員証のご提示でご観覧いただけます。</p> <p>※「MOMAT支援サークル」のパートナー企業の皆様は、社員証のご提示でご観覧いただけます。 (同伴者1名迄。シルバー会員は本人のみ)</p>
お問い合わせ	050-5541-8600 (ハローダイヤル)
ウェブサイト	https://www.momat.go.jp
同時開催	<p>企画展「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則」 (会期:2021年6月18日-9月26日)</p> <p>観覧料:一般1,300円、大学生800円、高校生以下無料</p> <p>※「隈研吾展」の観覧料で、入館当日に限り所蔵作品展「MOMATコレクション」(4F-2F)、コレクションによる小企画「鉄とたたかう 鉄とあそぶ デイヴィッド・スミス《サークルIV》を中心に」(2Fギャラリー4)もご覧いただけます。</p>

※新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、開催内容、開館時間等が変更になる可能性がございます。
最新情報はウェブサイトにてご確認ください。

【報道関係のお問い合わせ先】

広報担当 小川・堀田 TEL: 03-3214-2565 FAX: 03-3214-2576 Email: pr-f@momat.go.jp